

縦スクロールにより観察された物体画像の記憶：  
画像の背景色の影響と観察時の視線の分布について

平野 理沙

概要

昨今の SNS では、写真や動画などを自分のペースで縦スクロールしながら閲覧する手法が多く採用されている。本研究では、そのような環境において物体画像の背景色の特徴が物体そのものの記憶に影響するのかを明らかにすることを目的として、実験を行なった。実験では自分のペースで画像を切り替える自己ペース RSVP 法(図 1)による提示と、自己ペーススクロール(図 2)による提示を比較することで、自己ペース縦スクロールならではの記憶特性に迫った。

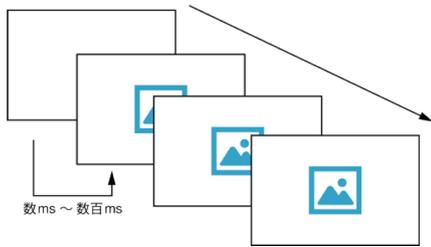


図 1 RSVP 法



図 2 自己ペースのスクロール法

実験 1 では色の 3 属性の中で彩度に着目し、物体画像の背景色を 4 通り(彩度(50 / 100) × 色相コントラスト(同系色 / 反対色))で変化させ(図 3)、スクロールと RSVP の双方の提示方法で実験参加者に対し、閲覧課題および遅延後再認課題を行なった。

彩度の条件

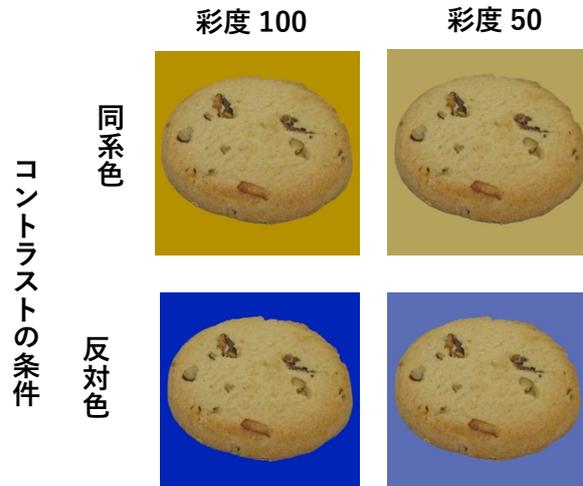


図 3 背景色の条件

実験2では実験1と同様の実験パラダイムを用いて視線分布の計測を行なった。その結果、遅延後記憶保持率には背景色の彩度の主効果は見られなかったが、提示方法とコントラストに交互作用の傾向が見られ、スクロールで閲覧する場合は同系色、RSVPで閲覧する場合は反対色に遅延後記憶保持率の優位性がある傾向が示唆された(図4)。また実験2では、スクロールはRSVPに比べ、停留回数が多いが1回あたりの停留時間は短く、垂直方向のサッケード距離が有意に長いことが明らかになった。このような細かく素早い視線移動が引き起こされるスクロール特有の観察方法により、スクロールでは物体の輪郭が捉えづらくなることが考えられる。よって同系色条件で記憶保持が高くなるスクロール提示では、物体と背景色を併せた全体の色情報を想起の手がかりとして利用していた可能性が示唆された。

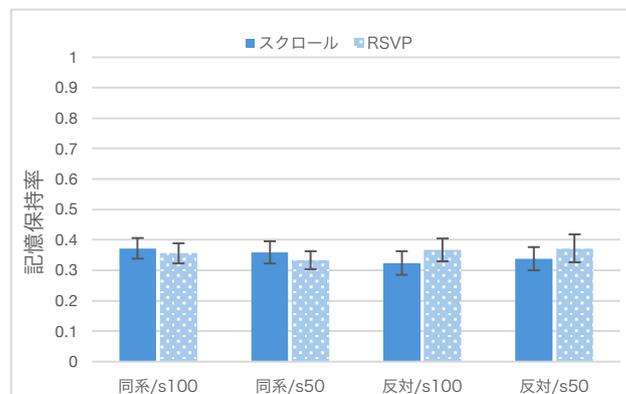


図4 平均遅延後記憶保持率